

第2分科会 第1分散会 教育課程Ⅰ

研究課題 豊かな心をはぐくむ教育課程の編成

趣 旨

学校が求める教育の姿は、子どもたちがよく学びよく遊び、心身ともに健康に育つことである。さらに、保護者や地域の期待に応え、子どもの社会的自立を支え、一人一人の多様な能力を伸ばし、人格の形成とともに国家・社会の形成者を育成することである。このために、高い資質と力量を備えた教師が自信をもって指導にあたらなければならない。

しかし、子どもたちを取り巻く生活環境は、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的生活習慣の未確立などの問題を引き起こしている。それらは、子どもたちの心の活力を弱め、社会参画への意欲や態度の形成ができにくいという社会的な問題となっている。

こうした中で、学校には、家庭や地域から信頼される学校として、規範意識や公共の精神に基づき主体的に国家・社会の形成者となるたくましく豊かな心をもつ子どもの育成が求められている。

豊かな心をはぐくむとは、生命を大切にすること、自分自身のよさを見つめる心、自他を思いやる心、美しいものや気高いものに感動する心などを育てることである。それは、学校と家庭と地域が協働して、自分の学校や地域に深い愛着をもち、ふるさとに誇りをもつ心を育成することでもある。

このことは、学校教育全体で取り組む「地域に根ざした学校づくり」を意味するものである。学校には、家庭・地域と信頼し合い、協働して、道徳教育の内容・形式の両面を見直し、核となる道徳の時間の改善と道徳教育の評価の在り方を追求していくことが課題である。

これらの課題を解決し、豊かな心をはぐくむ教育課程を編成し充実させていくための具体的な方策を明らかにする。

研究の視点

1 学校・家庭・地域が協働し豊かな心をはぐくむ教育課程の編成

豊かな心をはぐくむには、学校が「地域に根ざした学校」として、子どもが核となり、家庭や地域とともに、体験を軸として、特色ある教育活動が展開できる教育課程の編成が必要である。

そのためには、子どもの生活全体で一貫した目標を設定し、家庭・地域と共通理解を図り、子どもの発達段階と地域の実態をかかわらせながら、重点目標を設定し特色を明確にした活動を展開することが求められている。

また、地域の特色を踏まえた保・幼・小・中学校の校種間の連携や接続に配慮した教育課程の編成と実践が重要である。これらの豊かな心をはぐくむ教育課程の編成と実施に関するさまざまな課題について、校長の果たすべき役割と在り方を究明する。

2 道徳教育の充実と実践力を高める教育課程の編成

道徳教育は、心の教育の基盤として子ども一人一人の道徳性を育て、学校教育全体を通して行うものである。道徳の時間をはじめ各教科、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じた適切な指導が必要である。そのためには、子どもの発達段階に即して、保護者や地域の願いを生かした道徳教育の重点を明らかにした全体構想が必要である。

また、具体的な子どもの姿を見据えながら、PDCAの一連のサイクルを通すことによる道徳教育の充実と実践力の向上が求められている。

これらの道徳教育を充実する教育課程の課題について、校長の果たすべき役割と在り方を究明する。